

# 市町村における都市計画道路の見直し実態と課題\*

—石川県の事例分析—

Actual Condition and Problem for Revision of Planned Roads in Municipality\*

—Case Study in Ishikawa Prefecture—

森國浩一\*\*・川上光彦\*\*\*・倉根明德\*\*\*\*

By Kouichi MORIKUMI\*\*・Mitsuhiko KAWAKAMI\*\*\*・Akinori KURANE\*\*\*\*

## 1. はじめに

### (1) 研究の背景

都市計画道路は、生活の利便性向上や産業活動の支援、または都市間交流の円滑化などを目的として、早いものは大正期から計画されてきた。また、都市計画道路は将来の都市全体の道路網として一体的に計画されるため、戦後復興期や新都市計画法施行前後、大規模事業の計画策定時などにおいて、道路構造の見直しやネットワークの再検討などを繰り返しながら進められてきた。このように都市計画道路は、都市の将来像を誘導すると共に、将来交通需要に対応して計画決定されたものであるが、財政状況の悪化や代替路線の整備、歴史的建造物等の保存等が要因となり長期間未着手になっている路線も少なくない。また、都市計画道路の多くは、高度経済成長期の人口増大や経済成長に伴う交通量の増大を想定して計画されたものが多く、近年の人口減少や経済の低成長、市街地拡大の収束等の社会情勢が変化してきたことを考えると、その位置づけや必要性に変化が生じている路線が多く存在している。2008年3月末時点においては、全国の幹線街路の計画延長の約38%が未着手となっている<sup>1)</sup>。

国土交通省では、このような背景から平成12年に発表した都市計画運用指針の中で、都市計画道路の見直しがあり得ることを明示した。岐阜県はいち早く見直しに取り組み、平成13年5月には都市計画道路の見直し方針をまとめ、県内3つの都市計画道路の見直しを実施した。この岐阜県の事例以降、その他都道府県及び政令市で都市計画道路の見直しガイドライン<sup>1)</sup>の策定が進められ、各自治体において都市計画道路の見直しが行われている。

### (2) 研究の目的

全国的に都市計画道路の見直しが進められてきているが、近年の公共投資の抑制傾向が続く中で、都市計画道路の整備も長期化する傾向にあるなど、見直しにおける課題も多いのが現状である。そこで本研究では、石川県が実施した都市計画道路の見直しの経緯及び結果から、見直しにおける課題を明らかにすることを目的とする。既往研究としては、川崎ら<sup>2)</sup>が長期未整備の都市計画道路をめぐる訴訟を考察し、都市計画道路の整備及び見直しを進めるうえでの検討課題として、定期的な都市計画変更義務の遂行、事業期間明示型都市計画制度の導入、都市計画基礎調査の内容の充実等を提起している。梅宮ら<sup>3)</sup>は歴史的町並みにおける都市計画道路の見直しに関して、全国的な見直し状況と愛知県犬山市を事例とした合意形成過程を考察し、合意形成の阻害要因や促進要因を明らかにしている。倉根ら<sup>4)</sup>は歴史的市街地における都市計画道路の見直しを対象とし、CVMを用いた歴史的町並みと調和した道路整備の価値評価を行い、その適応性や課題を明らかにしている。しかし、見直しにおける課題について論じたものは見当たらない。

### (3) 研究の方法

研究の方法としては、平成15年に見直しガイドラインを策定した石川県について、担当者に対して平成22年2月に実施したヒアリング調査及び行政文書などから、県内の見直し状況を把握するとともに、見直しにおける課題を明らかにする。

## 2. 石川県における都市計画道路の見直し状況

### (1) 都市計画道路の見直しにおける特徴

石川県では、見直しを行う市町村に、それぞれ第三者機関として「都市計画道路検討委員会」を設置し、そこへ県の担当者をはじめとした有識者が委員として参加し、各委員の専門性に立った見地から意見を重ね、検討対象となる各路線区間の見直しの基本的な方向性をまとめている。段階的に都道府県と協議を行うものの、実質的には市町村が主体的に見直し計画案を作成している事例が多い<sup>(2)</sup>中で、見直しの初期段階から県の担当者が検討

\*キーワード：都市計画道路、見直し、ガイドライン

\*\*学生員、金沢大学大学院自然科学研究科社会基盤工学専攻

\*\*\*正員、工博、金沢大学理工研究域環境デザイン学系

(金沢市角間町、TEL:076-264-5111)

\*\*\*\*正員、工修、長野県建設部

(長野市大字南長野字幅下692-2、TEL:026-232-0111)

委員会の委員として議論に参加している点が特徴といえる。また、県や見直しを実施している市のHPに見直しの実績や具体的な見直しの事例を公開している点、一部市町で路線の廃止に伴い生じた空き地で歩道整備が予定されている点なども工夫されている点だといえる。このようなことから、県が見直しについて市と一緒に積極的に進めている先進的な自治体といえる。

## (2) 都市計画道路の整備状況

表1は平成20年3月時点における石川県の都市計画道路の整備状況をまとめたものであるが、未着手延長の約8割が20年以上未着手となっていることがわかる。また、20年以上未着手の延長は計画延長全体の約2割を占めており、ネットワークの形成に支障を与えているだけでなく、長期間の建築制限により、地区の衰退的現象がみられる地区もあり問題だといえる。

平成14年6月に石川県が25市町を対象に実施したアンケート調査の結果をみると、長期未着手の理由として「補償費・事業費の増大」や「代替路線がある」が多く、次いで「交通需要の低下」や「ネットワーク上の理由」が挙げられており、代替路線の存在や交通需要の低下などの社会情勢の変化、経済の低迷などから長期未着手になっていることが明らかになった。

表1 石川県における都市計画道路の整備状況 (km)

	計画延長	整備済み延長	概成済み延長	未整備延長			
				事業中	未着手	20年以上未着手	
石川県	1,055	579	132	345	99	246	203
	100.0%	54.9%	12.5%	32.7%	9.4%	23.3%	19.2%

## (3) 各市町の見直し状況

表2は石川県内の各市町の見直し状況をまとめたものである。表2に記載していない5市については現在見直しの作業中である。各市町をまたぐ道路については隣接する市町間で見直しの時期を合わせる等の調整が必要であると考えられることから、石川県のように見直し時期が各市町でずれてしまうことは広域調整の面で問題だと思われる。しかし、石川県の担当者に実施したヒアリング調査により、見直しに対する財政当局の理解の差異などにより、見直しの時期を合わせる事が困難であることが明らかになった。

表2 各市町の都市計画道路の見直し状況

	見直し期間	見直し路線数	見直し延長(m)
金沢市	平成16年～平成18年	8	10,620
輪島市	平成17年～平成20年	3	1,880
かほく市	平成18年～平成20年	17	24,400
七尾市	平成21年	6	5,100

## (4) 金沢市の見直し状況

金沢市は石川県内で最も早く見直しに取り組み、8路線10区間の見直しを終えている。金沢市内には様々な歴史性・文化性の高い施設や景観資源が存在することから、その保全を考慮した見直しを実施されてきており、歴史資源喪失を理由に廃止された路線も存在している。しかし、そうした路線で廃止した後の対応として局部改良や隅切り改良等が計画されていたが、実施までは至らず停滞している実態がみられる。また、廃止路線地区においては、まちづくりを行っていくうえで防災に関する整備も重要であり、金沢市などの廃止路線地区の対応が今後の大きな課題であるといえる。

## 3. 今後の課題

ここまでの石川県における見直し状況の考察により、20年以上前に計画されたにも関わらず、未着手となっている路線の割合が多いこと、隣接市町村間での広域調整については互いの見直しの時期を合わせて調整することが困難なこと、廃止となった路線の見直し後の対応についての課題が明らかになった。今後はガイドラインにも必要性が記載されている住民参加について、また特徴的な路線を抽出して分析するなど、さらに石川県の見直しについての詳細な分析を行い、見直しの際に生じる評価点・問題点を明らかにしていきたい。

### 補注

- (1) 自治体により「マニュアル」「指針」「方針」等の表現の違いはあるがここでは総称して「ガイドライン」とした。
- (2) 平成21年11月に都道府県及び政令市を対象に実施した都市計画道路の見直しに関するアンケート調査の結果から、市町村が主体的に見直し計画案を作成しているとしている。

### 参考文献

- 1) 平成21年度全国都市計画主管課長会議資料
- 2) 川崎興太、大村謙二郎(2008)、「長期間未整備の都市計画道路をめぐる都市計画訴訟に関する研究—都市計画道路の整備及び見直しのあり方を再考するため—」、日本都市計画学会都市計画論文集No.40-3、pp.271-276
- 3) 梅宮路子、岡崎篤行(2005)、「歴史的町並みにおける都市計画道路の見直しに関する合意形成過程—全国的状況と愛知県犬山市の事例について—」、日本都市計画学会都市計画論文集No40-3、pp.505-510
- 4) 倉根明德、川上光彦、西澤暢茂、小林史彦(2003)、「歴史的市街地における都市計画道路整備のCVM評価に関する研究—金沢市における事例研究—」、日本都市計画学会都市計画論文集No38-3、pp.511-516